

## 編集後記

大分県中津市での第一〇七回日本医学史学会総大会が終った。前野良沢・福沢諭吉の故郷で開催のためか、参加者も演題数も多く、二会場で研究発表が行われた。▼総会でも報告されたが、学会誌の投稿規定が一部改訂されることになった。改訂の内容は、最近特に重要視されてきた生命倫理・個人情報・著作権に関係するものと、原稿の書き方・投稿の仕方である。社会情勢、印刷方法の変化などで改訂せざるを得なくなつた。七年ぶりの改訂である。投稿される時は、投稿規定を一読して下さい。▼学会誌の論文を広く活用してもらうために「国立情報学研究所電子図書館サービス」に参加することになった。出版ずみの日本医学史雑誌がパソコンで見られるので便利である。▼今年度、学会誌の出版助成として、科研費一五〇万円が認可される。論文掲載料の負担が生じた時、本学会会員のほとんどが個人負担となっている。個人負担を少なくするには科研費の助成はありがたい。▼五月の編集委員会で、長年編集委員として活躍してくれた真柳誠氏が編集委員を退任し、代って鈴木晃仁氏（慶応義塾大学経済学部教授）が就任した。真柳氏の退任で編集委員長は、真柳氏から坂井建雄氏（順天堂大学医学部教授）に交代した。

（蔵方 宏昌）

訂正のお知らせ

「日本医学史雑誌」五十一巻三号に掲載の深瀬泰旦論文「緒方洪庵と添田玄春―西洋医学所頭取役宅の新築をめぐる―」において、著者自身の原稿誤りにもとづく訂正の依頼がありましたので三四九ページ二行目の文章をつぎのように訂正いたします。

洪庵が急死したのは玄春が長崎から帰府する直前のことで、添田からはなんらかの応接があつたにちがいないが、